

2020年度
第1回
推進学習会
(2020年11月17日)

「貧困・子ども食堂を考える」

京橋事務所(本部)
参加38名(組合員活動委員)

～パルコプが支援する子ども食堂・フードバンクの到達とこれから～



「貧困」とは「みなさんの中には」と

松岡さんは「貧困」とは「みなさんの中には」と

日本では現在、7人に1人の子どもが貧困な状況にあると言われ、中でも大阪府の子どもの貧困率は全国ワースト2位という実態です。貧困や孤食といった子どもたちを取り巻く社会の問題や、子ども食堂が持つ意味や可能性について学ぼうと、おおさかパルコプ・常勤理事の松岡賢司さんにお話しいただきました。

貧困には大きく2種類あります。難民キャンプで暮らすような最低限の生活を営むことも困難な「絶対的貧困」と、OECD(経済協力開発機構・加盟35カ国)が定める中間の人の半分以下の所得の世帯や、普通の生活基準を下回っている状態の「相対的貧困」です。日本の相対的貧困率は年々増えており世界から見ても高い水準になっています。その中でも、ひとり親家庭(シングルマザー)のふたりにひとりが相対的貧困状態になっているというのが日本の特徴です。

子ども食堂やフードドライブに関する情報はホームページでも紹介しています。
https://www.palcoop.or.jp/au_ji/kodomoshokudou/



2020年11月度



フードドライブ活動で
ご提供いただいた品数と量目

たくさんの食材のご寄付ありがとうございました。組合員の皆さまからのお気持ちは、子ども食堂の方へちゃんとお届けします。

全ての店舗(9店)の合計	604品	171kg
京橋事務所と全ての組合員会館(4会館)の合計	114品	37.9kg
総合計	718品	208.9kg

〈今後のフードドライブ回収週〉

2月

- ◆店舗は2月21日(日)～27日(土)
- ◆組合員会館・京橋事務所(本部)は2月22日(月)～26日(金)

3月

- ◆店舗は3月21日(日)～27日(土)
- ◆組合員会館・京橋事務所(本部)は3月22日(月)～26日(金)

引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

実施日時・回収場所

店舗は毎月末週の日曜日～土曜日
※12月は第3週
(詳しくは店頭のポスターを確認ください)
組合員会館は毎月末週の月曜日～金曜日
時間はそれぞれの営業時間内

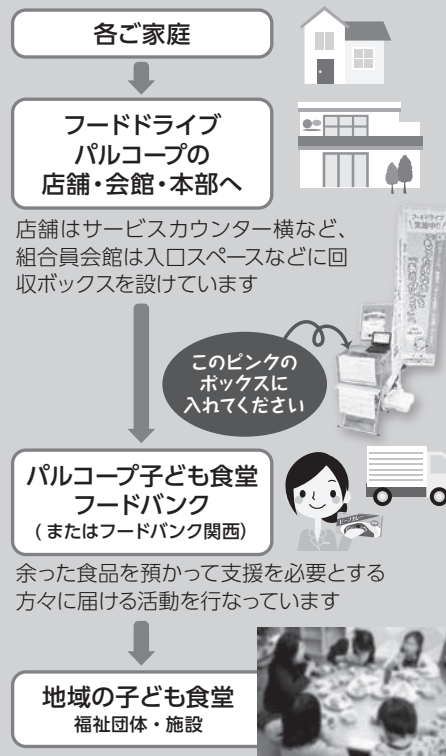
ご寄付いただきたい食品(常温品)

- お米(白米・玄米・アルファ米)
- パスタ、素麺などの乾麺
- 缶詰・レトルト食品・インスタント食品
- のり・お茶漬け・ふりかけ
- 粉ミルク・離乳食・お菓子
- 調味料(醤油、食用油、味噌など)

以下の食品はお引き取りできません。

- ・冷蔵食品、冷凍食品、農産品(お米除く)
- ・賞味期限が明記されていない食品
- ・賞味期限が切れている食品
- ・賞味期限が1ヶ月を切っている食品
- ・開封されているもの
- ・生鮮食品(生肉・魚介類・生野菜)
- ・アルコール(みりん、料理酒は除く)

食品の流れ



家庭系プラごみ処理の現状と課題 (講演内容要旨)



大阪商業大学
公共学部 准教授
原田 禎夫さん

1950年代に始まったプラスチックの生産は、現在は世界中で年間約4億トンにのぼっています。その中でも一番多いものは「パッケージング(容器包装)」で、全体の生産量の約4割に。日本でも年間約1000万トンのプラスチックを生産しています。

分別・回収されたプラスチックごみは、粉々にして再びプラスチック製品になる「マテリアルリサイクル」だけでなく、鉄を製造する時に使用する高炉還元剤やコークス炉化学原料などになる「ケミカルリサイクル」もあります。「一生懸命分別して出しても、どうせ燃やしている」と言われる方もいますが、こうした高度な処理もされて、すべて有効に使われていることを知ってほしいと思います。

焼却処理に依存した
日本の廃棄物処理

しかし、日本のプラスチックのリサイクル率は約27%と世界から見ると遅れているのが現状です(左グラフ参照・マテリアルリサイクル約23%・ケミカルリサイクル約4%)。焼却処理に依存した日本の廃棄物処理は、プラスチックの生産量と処理・処分量の現状を把握するために作成されたグラフです。

海洋ごみ問題は
日本も無関係ではない

海洋ごみ問題は本場に深刻になってきていて、特にアジアの国から流れ出しているごみが非常に多いことが分かっています。しかも、日本などの先進国から品質の良いプラスチックごみを輸入・処理している国のランキング上位から流出しているんです。それは、自国のプラスチックごみを処理するインフラを整備するより、安くて品質の良いプラスチックごみを処理するこ

とが優先になるから。自国のプラスチックごみが海洋に流出しているのです。一方で、今まで多くを処理していた中国では2018年からプラスチックごみを輸入することにブレーキをかけ、2021年には全面ストップすることが決まっています。急に行き場を失ったプラスチックごみ。もう海外に頼ることもできません。

ごみそのものを
減らす努力が必要

みなさんも一度今までの常識をうたがってみてください。「そもそも『ごみを燃やす』事ってどうなんだろう」と。徹底的にリサイクルしていくことが温暖化対策の意味でも求められています。そして、リサイクルを頑張ることも大事ですが、ごみそのものを減らす努力が必要です。環境を大事にする取り組みは、今の生活の質を下げることになるのではないかと。という不安の声もあります。が、世界ではこれからの生活を豊かにするためのものだととらえる考え方や教育も進んでいます。私たちの国でも、ガマン・不便・と思わないで楽しんでごみを減らすために何ができるか、一緒に考えていけたらと思います。

「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」チャレンジありがとうございました

はるタイム178号で呼びかけた「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」に7名の組合員さんから応募がありました。寄せられた感想やプラごみを減らすための工夫などをご紹介します。

台所から出るプラごみの多さを実感した。意識してみても「そうか!これもプラごみ」と気づく場面もありました。特に冷凍食品・冷蔵食品にプラが使われている。こればかりは他に代用は無理ではないかと感じた。

実際に1つ1つ捨てる時に記録するのは正確には難しいですが、やってみることで、自分の中の意識は少なからず変わりました。こういったことを定期的にやっていけば、やがて日常化していく。それが多くの人に広がっていけばいいなと思いました。

プラごみを減らすための工夫は、ラップを使わず、フタ付きの容器を使用する。電子レンジ用のフタを使用する。ダイレクトメールの封筒に使用されているビニール封筒を再利用する(案外使えます)。

